

## 地域包括ケアシステム形成に向けた地域福祉の視点と役割 - 2025年までに何が出来るか？ -

地域包括ケアシステムは、住まい・介護・医療・予防・生活支援が一体的に提供されるだけでなく、住民参加による「新しい支え合い」の仕組みの創造が期待される。

地域包括ケアシステムは、団塊世代が75歳以上となる2025年に向けて政策的に推進されており、高齢者の尊厳保持と自立支援の目的のもと、住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるように、地域特性を生かし、地域の自主性や主体性に基づく取り組みが各地で進められている。

しかしながら、地域包括ケアシステム構築は、高齢者分野だけに求められる取り組みなのだろうか。特に、地域福祉分野では、高齢者だけでなく、障害者、子どもや家族支援等を含めて、社会福祉協議会、民生委員児童委員、住民団体や関係機関等との協働で展開してきた経過がある。

本セッションでは、まず、福祉政策の視点から地域包括ケアとシステム構築に関わる現在の多様な論点を共有し、次に住民主体活動、地域福祉、在宅医療の視点から、地域包括ケアシステム構築への取り組みや課題を共有する。そして、2025年までに地域福祉はどのような貢献ができるのか、またどのような結果を出すことが求められるのか、地域福祉のイノベーションを含めて議論を深めたい。

■コーディネーター 神山 裕美 氏（大正大学）  
松永 文和 氏（神奈川県社会福祉協議会）

■発題者：柴崎 光生 氏（NPO鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会 会長）  
自治会長を務めた後、「避難所運営委員会」の活動を開始。2011年同会を設立。埼玉県鶴ヶ島市において新たな地域コミュニティづくりを創造している。

■発題者：山本 信也 氏（宝塚市社会福祉協議会地域福祉部地区担当課 課長）  
宝塚市社協入職後、障害者デイサービスセンター、地域福祉担当、ボランティア活動センター、在宅介護支援センター等を経て、現在、地区担当課長としてエリアマネジメントを担当。共著「市民がつくる地域福祉」CLC がある。

■発題者：平原佐斗司 氏（東京ふれあい医療生活協同組合 副理事長）  
梶原診療所 在宅総合ケアセンター長/病棟医長、オレンジほっとクリニック（認知症疾患医療センター）所長を務める。総合内科専門医・在宅医療専門医・日本在宅医学会副代表理事。

■発題者：猪飼 周平 氏（一橋大学大学院社会学研究科 教授）  
専門は社会政策・ヘルスケア政策。主著として『病院の世紀の理論』有斐閣等、医療・社会・福祉政策等への著書・論文が多数ある。